

弟子たちの足を洗うイエス

ヨハネ福音書13:1-11

【新改訳 2017】

- 13:1 さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。
- 13:2 夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうという思いを入れていた。
- 13:3 イエスは、父が万物をご自分の手に委ねてくださったこと、またご自分が神から出て、神に帰ろうとしていることを知っておられた。
- 13:4 イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。
- 13:5 それから、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰にまとっていた手ぬぐいでふき始められた。
- 13:6 こうして、イエスがシモン・ペテロのところに来られると、ペテロはイエスに言った。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」
- 13:7 イエスは彼に答えられた。「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります。」
- 13:8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」
- 13:9 シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」
- 13:10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです。あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけではありません。」
- 13:11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「皆がきよいわけではない」と言われたのである。

【祈りながら考えよう】

- (1) サタンが私たちが誘惑するのによく使う武器は何ですか。
- (2) 7節の「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります。」の意味を説明してください。
- (3) すいよく水浴とせんぞく洗足の霊的意味の違いを説明してください。

【解 説】

（1）弟子たちを最後まで愛された

さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。(1節)

今まで一般の人々に対しては「いのち」とか「光」という言葉が使われたが、「自分のもの」、すなわち、本当の弟子であった者たちに対しては「愛」が中心になっている。主は、地上の働きが終わる最後の時まで彼らを愛されたばかりか、永遠に至るまでも愛し続けられる。ここでも、主の姿を、「世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された」と記して、今日の学びの出来事に入っている。

（2）イエスを裏切ろうという思いを入れていた

今日の学びに入って行く前に、ヨハネはその出来事がこのことと関係があるのだと言わぬばかりに、こう記している。「夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうという思いを入れていた。」主イエスは、まもなく十字架に掛かって死ななければならない。それは、イスカリオテ・ユダの裏切りによって始まることであり、また天から降りて来られた主が、また天に帰られることでもあった。主は受肉によって天からこの世に来られ、十字架上の死と復活、昇天によって、天に帰られるわけである。

悪魔は、主の十二弟子のひとりイスカリオテのユダの心に、よくない思いの種を蒔いた。彼は、主によってその十二人の中選ばれていた。三年の間、主の弟子として歩み、主の奇蹟を見、主の教えを受け、主のなさった数々の恵み深いみわざを体験もした。そして他の使徒たちと同様に伝道に遣わされても行った。しかも、彼は悪魔にとりつかれ、破壊へ向かって行ったのである。

「入れていた」と訳されたことばは、直訳すれば「蒔いた」である。このことばは、サタンが働くやり方を絵のよう

に示している。サタンは誘惑する相手の心に悪の種を蒔く。心は彼が種をまく^{なえどこ}苗床である。「そそのかし」はサタンの主要な武器である。人の罪は、この「そそのかし」に心を開き、場所を与え、心に染み込ませることによりなる。

（3）ご自分が神から出て、神に帰ろうとしている

イエスは、父が万物をご自分の手に委ねてくださったこと、またご自分が神から出て、神に帰ろうとしていることを知っておられた。(3節)

今や父が万物をご自分の手に委ねてくださったこと、またご自分は神から出て、神に帰ろうとしていることを知っておられた。そして、愛と謙遜の実際的模範を弟子たちに示す最後の機会を得られた。主は、ご自分の時が短くなっており、教訓を与えるべきであるとすれば今夜そうしなければならない、と思われた。

（4）弟子たちの足を洗い、腰にまとっていた手ぬぐいでふき始められた

イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰にまとっていた手ぬぐいでふき始められた。こうして、イエスがシモン・ペテロのところに来られると、ペテロはイエスに言った。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」(4-6節)

夕食の席から立ち上がり、主は長い上着を脇に置かれた。それから腰に手ぬぐいを前掛けとしてまとい、奴隷の代わりをされた。

普通お客として人々を食事に招く時には、食事の前に奴隷(しもべ)がこのようにしてお客の足を洗う習慣があった。しかし、もう食事は始まっていたわけであるから、それとは異なる。

人の足を洗うのは、いつでも奴隷のすることであった。しかもそのような仕事は、異邦人の奴隷のすることであって、ユダヤ人の奴隷にはさせなかった。「極めて卑しい仕事」と考えられていた。それを、先生である主イエスが弟子たちの足を洗おうとされたのだから、弟子たちの驚きは大変なものであった。ペテロはびっくりし、主のように尊い方が、自分のようなつまらない者にへりくだることに異議を唱えた。



（5）今は分からなくても、後で分かるようになります

イエスは彼に答えられた。「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります。」(7節) これは「黄金のみことば」である。神の永遠の計画、教会の偉大なるかしらであられる方の知恵を、決して忘れてはならない。私たちに一切がまずい具合に進んでいると思える時でさえも、一切は順調に進んでいるのである。

病氣、悲しみ、死別、失望にある時に、私たちは信仰と忍耐とを奮い立たせなければならない。主が私たちに語られたのを聞かなければならない。「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります」と。

（6）あなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります

ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」(8節)

ペテロは「決して私の足をお洗わないでください」と強い口調で言った。ペテロに答えて、「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります、わたしとの交わりがなくなってしまふ」と主は言われた。

「足を洗うこと」の意味が解き明かされた。クリスチャンがこの世を歩んで行く時、一定の汚れを受けてしまう。下品な話を聞いたり、汚らわしいものを目にしたり、神を否定する人々と一緒に仕事をする結果、信者が汚れを受けるのは避けがたい。信者は常にきよめられ続けなければならない。

このきよめは「みことばという水」によって行われる。聖書を読み、また学ぶ時、また聖書の解き明かしを聞き、聖書についてお互いに話し合う時、周囲の悪しき影響からきよめられることを経験する。他方、聖書を軽視すればするほど、心と生活に邪悪な影響が残り、しかもそれを大して気にも留めなくなる。

主イエスは「あなたはわたしと関係ないことになります」と言われたが、イエスが足を洗わなければペテロは救われない、という意味ではない。主の贖いの血に根拠を持つこの「きよめの働き」を途絶えることなく経験することによってのみ、主との交わりが持続できる、と言われたのである。

（7）水浴した者は、足以外は洗う必要がありません

シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです。あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけではありません。」(9-11節)

そこでペテロは、もう一方の極端に走った。今しがた「決して洗わないでください」と言っていたのに、今度は「足だけでなく、手も頭も洗ってください」と言ったのである。

公衆浴場からの帰途、足はまた汚れる。もう1度風呂に入る必要はないが、足はどうしても洗う必要がある。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。」

「水浴した」と訳されたギリシャ語 *λελουμένος* (レロウメノス) は「全身を洗う」の完了形受動態である。この意味は、「全身がすでに洗われてきれいな状態にある」ということ。

私たちは主イエスの血によって、罪の汚れから全身洗いきよめられてしまっている。へブル10章10節「このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだを、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。」とある通りである。

浴場とたらいは同じではない。浴場とは、救われる時に受けるきよめを表す。「キリストの血によって罪の刑罰からきよめられる」というのは「ただ1回の出来事」である。

たらいとは、罪の汚れからのきよめを表し、「神のみことばによって絶えず繰り返さなければならないもの」である。水浴は1回でも、洗足は何回にも及ぶ。「あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけはありません」というのは、ユダを除いた弟子たちは新生の水浴を受けたという意味である。ユダはもともと救われてはいなかった。